

## 教育長定例記者会見 会見録

日時：令和4年5月24日（火） 11時30分～

場所：教育委員室

### 発表項目

- ・ 令和4年度オンライン日本語教育を実施します
- ・ 次代を担うグローバル・リーダー育成プログラムの実施について

### 質疑事項

- ・ 令和4年度第1回いじめ対策審議会について
- ・ 教育委員会定例会における訴訟事件の判決への対応について
- ・ 伊勢市での中学生塾費用の助成について

### 発表項目

#### ○ 令和4年度オンライン日本語教育を実施します

本日2点、説明させていただきます。1点目は、令和4年度オンライン日本語教育を実施するというものです。

本県の公立小中学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒は、令和3年度の数字ですけれども2,301人です。在籍する学校数は494校中233校で、この学校数はこれまでで一番多い数値となっております。

県教育委員会では、日本語指導を必要とするすべての外国人児童生徒が、より適切に日本語指導を受けることができるよう、令和2年度からオンライン日本語教育に取り組んでいます。今年度は受講人数を拡充し実施するものです。

児童生徒の日本語レベルに応じた日本語指導や学習支援が受けられるように、日本語指導、あるいは遠隔教育に知見を有する民間団体に委託をいたしまして、そこで行う講座を、希望する各市町の小中学生が受講できるようにするものです。委託先は、東京の青少年自立援助センターです。委託先が運営する、YSCグローバル・スクールが行うニコ・プロジェクトによる同時双方向のオンライン講座、日本語指導と学習支援を受けていただきます。受講期間は1ターム、20日間ございます。それで11の講座の中から、児童生徒の日本語レベルに適した講座を選択して受講をするものです。対象は公立小中学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒です。50人程度までの教材費を予算化しております。

#### ○ 次代を担うグローバル・リーダー育成プログラムの実施について

2点目は次代を担うグローバル・リーダー育成プログラムの実施ということです。

今年度の新規事業で、教育委員会が重点的に取り組む、未来を創造するリーダー育成事業の一つのプログラムとして実施するものです。

この目的は、三重の高校生が学校の枠を越えて結成したチーム（ミエラボ）が、例えばSDGsの学習、英語でのプレゼン能力を育成する講座、オンラインでの国際交流、これからの時代に必要なデータ分析力を高めるデータサイエンス講座に取り組んだ上で、力をつけて、自ら考え他者と協働する課題解決型の探究活動を行うことを通じて、次代を担うグローバル・リーダーに必要とされる資質・能力を育もうとするものです。このプログラムをとおして育成された個人の資質・能力は、民間のツールにより、取り組み前と取り組んだ後を測定します。グループでの探究活動の成果は、国や民間団体とか、いろんな機関がさまざまなコンテスト、発表会を実施しておりますので、そこで発表して、対外的な評価を受けるものです。

ミエラボは、県立高等学校に募集をかけて希望のあった7校、2年生22名の生徒で構成する、探究活動に取り組むチームです。22名は、関心のあるテーマのもと、その中で複数のグループに分かれて探究活動を進めることとしています。同じ分野に興味関心を持つ仲間と切磋琢磨する機会を設けることで、校内での教育活動では得られない経験を積んで、新たな可能性を発見して社会的な課題に挑戦しようとする意欲を育みたいと考えております。

取組内容は、①として、課題を設定しその解決策を考えます。特に人文科学、社会科学を中心に、個人やグループで課題を設定し研究を進めてほしいと思っております。その内容を大学生とか海外の学生とも意見交換して、研究を進めて参ります。並行して、SDGsに係る学習ということで、例えばトレードオフの関係にある課題の認識とか、いろんな発想力の育成を目的としたSDGsカードゲームを実施したり、SDGsの専門家から学ぶ講座を開催いたします。それから、グローバルな視野と語学力を高める目的のもと、オンライン国際交流を行います。大学教員の指導によるディスカッションやプレゼンの演習を行う、英語プレゼン講座を実施します。その上で、例えばフィリピンの貧困問題を学習することと、現地の同世代と交流するオンラインでのスタディーツアーもやります。さらに外国の高校生等との交流や、課題に係るディスカッションを行う、オンライン国際交流も実施したいと考えております。それから、データ分析を行う上で、必要な統計学の基礎を学んだりするデータサイエンス講座、民間の講座を受講してもらいます。そうした力をつけながら探究活動に取り組んで、その成果を、コンテスト等に発表して挑戦しようというものです。個人の資質能力は民間のツールにより測定をしていきたいと思っております。

8月までのスケジュールとしては、オリエンテーションがすでに終わっていますが、5月28日にSDGs講座、6月5日には、英語でのプレゼン講座を実施して、研究テーマをそれぞれが発表しながら、グループ編成をこのあたりでしたいと考えております。

応募するコンテストも決めながら、データサイエンス講座、あるいは海外のオンラインスタディーツアーを実施して、力をつけながら探究活動を進めて、12月か1月には全体として

の発表会も行う予定であります。

### 発表項目に関する質疑

#### ○ 令和4年度オンライン日本語教育を実施します

(質) オンラインの日本語教育は今回3年目で、例年と違うところはありますか。

(答) 内容的には、同じ内容を実施いたします。人数的には、初年度が3人、昨年度が14人ということで、学校数も広がっていますので、人数的にもう少し広く、そういう希望される児童生徒さんにこういうところへつなげたいと思っています。

(質) 初年度は3人で、2年目は14人。

(答) はい、昨年度は14人です。

(質) 3年目となる今回は50人程度を想定している。

(答) 50人までの予算を用意しております。教材とか要りますので。

(質) 初年度と2年目は大体どれぐらい用意してた。

(答) 初年度はちょっと始めるのが遅くなりましたので、人数がちょっと。

(質) 去年は、50人程度を予定していたということですか。

(答 小中学校教育課) 去年は、予算上は10人分ぐらいですね。

(質) 10人分用意したけど14人。

(答) はい。

(質) 今回は50人程度を、見込んでいる形でいいですか。

(答) そうです。

(質) 予算は、教材とあと委託費もありますよね。合計で総事業費とかは。

(答) 委託料が330万です。

(質) 教材は。

(答 小中学校教育課) 教材とその他諸々の経費を含めまして、令和4年度予算として380万円ほど計上しております。

(質) これも委託費含めてですか。

(答) そうです。

(質) これをオンラインで受ける側の子どもたちっていうのは、タブレットなりこのデバイスというか、その端末は、自分で用意してくれって言うことですか。

(答) もう昨年度から子どもたちに1人1台の学習端末が市町で配布されていますので、基本的にそれを使ってもらいます。

(質) あと、過去最多の学校数ってことなんですけど、地域的にはやっぱり工場が多い北勢に集中しているんですか。

(答) そうですね、集中としては北勢なり、伊賀なり、津なり、松阪なりっていうことなんですけれども、近年の傾向としては、県内で学校数がそれ以外の地域にも広がっている状況です。

- (質) さっきの、よくあるところ以外にも広がっていると。
- (答) そうですね。初めて在籍する学校が増えているという状況です。
- (質) このオンライン教育ですけども、これはただ動画を見るっていうだけなのか、その動画を見ながら誰かがまた教えてくれるのか。
- (答) そうですね、双方向です。どこかにある動画を自分で見て、一方的に見るっていうことではなくて、やりとりができたり質問ができたりという双方向の。
- (質) 画面越しの先生ってことですか。
- (答) そうです。生で双方向で学べます。
- (質) 外国人児童生徒が 2,301 人ということですけど、どのくらいの言語に渡っていますか。
- (答) 言語はですね、これも増えて 31 言語です。ポルトガル語とかスペイン語とか中国語とかそういうので 9 割ぐらいはいくんですけれども、言語数としては 31 言語になっております。
- (質) さっきの質問に関連して、向こうが配信して、これでそれに質問をできるってというのは、これはグローバル・スクールさんがやる事業を全国の外国人の子どもたちが見ていて言うより、三重県のこのためにやってくれるってことになるんですか。
- (答 小中学校教育課) 今回はこのスクールの方で、他の全国各地の方々が参加している中に三重県が入るというスタイルが基本です。
- (質) 全国の子からの質問を受けてくれるってことなんですかね。
- (答 小中学校教育課) そうですね。人数が増えてくれば、もしかしたらちょっと別についていうことはありえますけど。

#### ○ 次代を担うグローバル・リーダー育成プログラムの実施について

- (質) 育成プログラムですけど、これとりあえず 28 日はどこで実施するんですか。
- (答) 5 月 28 日は、オンラインになりますので、集合指定ではなくて自宅であったりですね。
- (質) その SDG s の講義は、誰から受けるかはもう決まっていますか。
- (答 高校教育課) 名古屋市立大学の、曾我幸代准教授による講義です。
- (質) これは大学の授業というよりは今回のプログラムに向けて講義をしてもらおうということでもいいですか。
- (答) はい、そうです。
- (質) その後、英語のプレゼンとか、データサイエンスなどの授業もあるわけですが、これも講義をする人は誰が決まっていますか。
- (答) そうですね、例えば英語でしたら、武庫川女子大学の清水教授という方なんですけれども、この方を今のところはお招きして行う予定です。高校生サミットのときにもこの武庫川女子大学の清水先生には、お世話になったご縁がございますので、今回も。

- (質) 高校生サミットの時にも、英語のプレゼンの講義をしたのか。
- (答 高校教育課) 2016 年の伊勢志摩サミット・ジュニアサミットでは、日本代表の参加者に対する研修講師を務めていただきました。
- (質) 22 人の生徒がこのプログラムを受講するということですか。
- (答) そうです。
- (質) 22 人は希望のあった 7 校と書いてありますが、学校が希望して、その上で参加する生徒を募ったのか、そもそもそういう生徒からの声が上がった学校が 7 校だったのか。
- (答) 生徒が希望した学校が 7 校ということです。すべての学校にこういう事業をやりまことを周知して、その上で応募のあったのが。
- (質) 学校はその生徒らに、どういうふうに募集したのでしょうか。すべての学校で募集したのか。
- (答 高校教育課) 学校から生徒向けに校内掲示などで、希望のある者は申し込むという形です。
- (答) 2 年生を対象という形にさせていただいています。
- (質) いつ頃募集しましたか。
- (答 高校教育課) 昨年度です。1 月の段階では募集をかけています。1 月、2 月。
- (質) 1 月から 2 月まで募集でいいですか。
- (答 高校教育課) 希望があがってきたのは 3 月。
- (質) いつからいつまで募集しましたか。
- (答 高校教育課) ちょっと細かいところは確認します。
- (答) すぐ確認してもう一度。
- (質) 例えば 7 校って、高校がどこか言えますか。
- (答) 桑名高校、四日市南高校、神戸高校、津高校、津西高校、松阪高校、伊勢高校、以上 7 校です。
- (質) それは進学校に公募したわけではなく、進学校かどうかに関わらず、すべての高校に募集したんですね。
- (答) そうです。
- (質) 結果、応募があったのは全部進学校だった。
- (答) そうです。進学が多い学校になっています。
- (質) 男女 22 名ですか。
- (答) はい。
- (答 高校教育課) 男性が 2 名、女性が 20 名。
- (質) 男性が 2 名しかいない。別に何も意図的なものを感じざるをえないと言っているわけではないですが、募集の仕方に公平性みたいなのはあったんですか。
- (答) もちろん女性を中心に集めたというわけではないです。
- (質) さっきの学校の話もそうですが。

- (答) いや、全くないですね。
- (質) 掲示がメインで募集して。
- (答) そこはどうですか。
- (答 高校教育課) 掲示です。
- (質) その掲示を見た生徒が学校に言って、学校を通じて応募している。
- (答 高校教育課) はい。
- (質) 教育長としては、このプログラムを通じて、生徒にどういう力を身につけてもらい、将来的にはどうなってもらいたいと思って事業を実施しているか。
- (答) まず校内での教育活動で体験できない新しいことに出会ったり、同じ分野に興味関心を持つような仲間と切磋琢磨してもらって、自分自身の可能性も発見したり、現在の社会的な課題に向き合って、それを自分なりにどういうふうに関わりたいかということ、グループなりで、しっかりこの事業を通じて考えてほしいと思っています。その上で、将来、全国はもとより世界でも活躍できるような人材になってほしいと思っています。いろんな挑戦する意欲や、いろんな課題に向き合う気持ちを持ってもらえれば嬉しいと思っています。
- (質) 意欲を持ってもらいたいということですが、そういう意欲のある人が申し込んできたというわけではないですか。
- (答) 元々こういうのに関心がある方ではあると思います。
- (質) 基本的に応募された方はすべて参加できるという結果にはなっていますか。
- (答) そうですね。
- (質) 全員が。
- (答) はい。
- (質) オンラインの国際交流ですが、フィリピンの現地の同世代と交流するとありますが、他に何か予定されている国とかありますか。
- (答 高校教育課) まだはっきり決まってるわけではありませんが、オンライン国際交流は6回ほど行おうと思っていますので、相手の国については、東南アジアを中心に、シンガポールやマレーシアの予定はしていますが、今ははっきり決まっているわけではありません。
- (質) データサイエンスのところですが、今、高校生とかが学ぶのは結構主流になっているんですか。
- (答) 統計や情報、数学においても、今の社会や産業界も含めて、データサイエンスが大事にされているということがあって、学習指導要領も変わって、情報というのがあるんですが、そこの中において、深いところまでということではないですが、考え方や基礎になる統計上のこととかというのは学ぶようになりました。
- (質) 今回の講座はそれよりも少し発展させたものということですか。
- (答) そうです。実際の社会や産業界で言われているデータサイエンスの力を身につけられ

るようなことをやりたいと思っています。

(質) ほかの、たとえば県とかでも実施ってされているんでしょうか。

(答) あまり多くは私の認識はないですけども、データサイエンスに特化した取組を進めている県もあったかと思います。

(質) オンライン国際交流とデータサイエンスとをあわせてっていうのは。

(答) そうですね。トータルでやるのは少ないのかなと思っています。

(質) 参加可能なコンテストっていうのは、想定はどんなものがありますか。

(答) 例えば、地方創生の政策のアイデアコンテストというのは内閣府がやっていたりとか、国際理解、国際協力のコンクールとかが日本国際連合協会があったりですとか、あるいは民間企業とかでもSDGsとか持続ある社会とか、さまざまありますので、そこをどういうコンテストとか大会を選択するかも、生徒が主体的に考えてほしいと思います。

(質) 今回のリーダー育成プログラムは、この形でやるのは、県は今年度が初めてですか。

(答) 初めてです。新規で重点的に取り組む事業の一つです。

(質) 文科省が国として、みなさん都道府県で、リーダー育成をやってくださいみたいな、そういうベースとなる事業があつてのことなんですか。

(答) いえ、そういうわけではありません。

(質) 県がやるっていう。

(答) そうです。

(答 高校教育課) さきほどの募集期間ですけども、2月15日から募集を始めまして、3月7日締め切りで募集しました。

(質) 2月15日から3月7日にかけて、まで、募集した、ということでもいいでしょうか。

(答 高校教育課) はい。

(質) 当時の1年生を対象にってことですか。

(答 高校教育課) はい。

(質) そもそも「ミエラボ」っていうもの自体も、今年度からということになるんでしょうか。

(答) そうです、初めてです。こういう枠組みですっていうのは初めてです。

(質) 県内の高校生を集めてテーマを作るとっていうのは。

(答) 何らかの形で、県内の高校生に集まってもらって、みんなで何かの講座を受けるということはあったんですけども、こういう形でデータサイエンスとか海外のオンライン交流とか、SDGsの学習をするという形で、そのうえでグループを組んで、1年間テーマを議論して、大会で発表したり、個人の資質を確認したりっていうのは初めてです。

(質) 募集するときから、こういうグローバル・リーダー育成プログラムをやります、興味がある人ってことで募集したんですか。

(答) おっしゃるとおりです。

(質) 基本的には1年間、このプログラムだけに取り組むということですか。ほかにもいろ

いろ取り組むってことではなくて、今年度はこれがメインってことですか。

(答) はい。

(質) 今、地方から海外の有名大学とかへ進学する例が増えているんですが、そういった事例をふまえて県としてこういうことをやってみようといったことですか。それとも、全然別の事ですか。

(答) 少しそういうこともあるんですけども、SDGsであったり、世界的な課題、地域の課題であったり、自分のまさに生活の課題になっている状況で、大きな世界のことが自分とは関係ないんじゃないくて、本当に自分に直結しているということがありますので、そのことをしっかり学んで発信するために、データサイエンスとか英語とか、プレゼン力とかを身につけて、その上で、自分なりに探究してほしいという思いでやらさせていただくものです。学校単位になるんですけども、理系については文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール、SSH事業というもので、どちらかと言えば理系中心にいろんなことをするんですけども、人文とか社会学的な部分については、なかなか高校生がそういった機会がないという課題認識もあって、させていただこうとしました。

(質) 今回は理系っていうよりは、人文系がメインってことですか。

(答) 理系を排除するというじゃないんですけども、どちらかと言えばそういったところに期待しているというところもあります。

(質) 事業費は。

(答) 728万円です。

(質) 講師の方への支払いとか、事業とか、設備ね。

(答) そうですね、オンラインの交流の経費であったりとか。

## その他の項目に関する質疑

### ○ 令和4年度第1回いじめ対策審議会について

(質) いじめ審議会の関係で、次の開催が5月28日を予定されていたかと思うんですけども、時間とか場所とかは。

(答) まだ、すいません、お知らせできていないってことですね。午後に予定しております。申し訳ない、早いうちに資料提供でお伝えさせていただきたいと思います。今度の土曜日の午後に予定しております。

(質) これで、もう取りまとめるか。

(答) そうですね。審議会に諮問させていただいて、前回2回目もその内容を議論いただいて、今回3回目ということで、答申をいただく予定としています。

(質) これで答申を受けて、それを知事に提出する？

(答) 教育委員会の中の審議会ですので、教育委員会に対して、今後の重大事態についての取組になるようにという形での答申になります。

(質) ここで一定の結論が出るっていう。



(答) 結論というか調査の進め方でありまして、それから、調査の実施主体であるとかってということについて課題があったということで、諮問を、審議会の方にその部分について議論いただいて、答申をいただきたいということですので、今後の、そういうことをふまえて、今後の重大事態についての対処についての考え方ということで、答申をいただくというふうになっております。

(質) 答申した後、何て言うんでしょう。また、取材、囲みなりなんか。

(答) そうですね、そのあたりもさせていただこうと思っておりますので、そこも、ご案内させていただく予定です。

(質) 28日の午後。

(答) 夕刻に近いと思ってましたけども。

#### ○ 教育委員会定例会における訴訟事件の判決への対応について

(質) ちょっと確認させていただければと。訴訟事件の判決への対応って、一応どんなふうだったのか伺ってもいいですか。

(答) 以前に、教育委員会だけではないんですけども、県民の方から損害賠償請求の訴えが起こされた事案が、昨年度ですけれどもございまして、内容的にはその訴えられた方が、昭和52年ごろから60年、昭和60年までぐらいの間に、小中学校の教師から暴行を受けたなどで、教育委員会に損害賠償の請求があったというものです。その部分について訴訟審議が進められまして、4月に判決が言い渡されたということの報告です。この教育委員会の判決の内容としては、請求は棄却すると。判決理由の要旨としては、原告の主張を客観的に裏付ける証拠がなく、他に、事実の存在をうかがわせる証拠も認められないため、原告が主張する違法行為が存在したとは認められないということで、原告の請求は認められないという判決があったということの報告をさせていただきました。

(質) 県教委としても、調べたところやっぱりそれを示すものは。

(答) はい。そうです。

(質) 今の訴訟事件判決への対応なんですけど、原告の請求は認められなかったけれど、対応なので、皆さんとしては今後どうされるという。

(答) 原告の方は、控訴されたというふうには聞いているんですけども、私どもの方には、その控訴状がまだ送達はされていないんですけども、送達された際には引き続き適切に対応していくということ、方針として、説明をいたしました。

#### ○ 伊勢市での中学生塾費用の助成について

(質) 塾の費用を、行政が一部の家庭に補助しますよとか。そんなんでしょうか。

(答) 今の状況下において、それぞれの市町の方で他の保護者負担とかいろんな状況もふまえて、取られる施策の一つなんだなというふうに認識しました。県教育委員会では、例えば、それをどう思うかっていうこととは少しずれてしまいますけれども、地域未来塾とい

うことで国の事業を活用しての部分になるんですけども、学校外で、補習的なことを開催できるような経費を国の補助も活用しながら、市町教育委員会に、すべての市町教育委員会ではなく予算にも限りがあるんですけども、従来から補助させていただいて、教育委員会としては、そういったさまざまな取組も通じながら、子どもたちの方、学ぶ機会とか学力の向上ということで取り組んでいければなというふうに思っております。小中学校ですので、設置者は市町教育委員会になりますので、よくそことも連携して、トータルとしてやっていきたい

。

(質) 塾に通わさんでも担保できるぐらいの教育を、教育委員会としてやっていくぐらいの決意はありませんか。

(答) 教育委員会としては、学校教育の中で従来からやっておりますし、引き続きその部分について、学校ではしっかりやっていきたいというふうに思っています。

以上、12時7分終了